


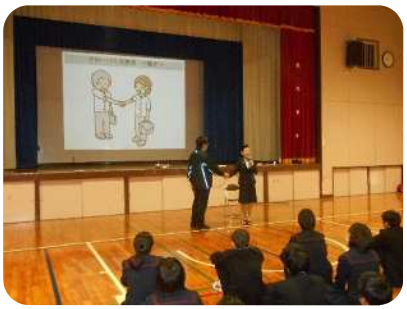
# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 足立 中学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	北九州市立 足立中学校 第3学年生徒：103名 第2学年生徒：100名 第1学年生徒：99名 保護者 50名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合・道徳・学活 ） ② 行事名（ 体育大会 ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化、習慣、宗教などが異なる海外の人々に対する国際マナーを講話やロールプレイを通して、相手の立場にたったマナーの必要性について自分なりの考えを持ち、実践していく態度を養う。</li> <li>・競技用車椅子の使用体験を通して、障がいを持った人々と共生する社会について、誰もが気持ちよく生活していくために配慮すべきことを考える。</li> <li>・競技選手との交流の中から、相手を出迎える「おもてなしの心」を育成し、スポーツへの関心を高める。</li> </ul>
5 取組内容	<p>【① 第3学年対象「おもてなし講座」の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月26日（水）に第3学年を対象に筑波大学 江上客員教授に來校していただき、「おもてなし講座」の講演会を開催した。</li> <li>・面接での好印象の与え方などが講演内容に含まれていたため、事前に総合などを利用して、第3学年には入試面接の受け方などを通して立ち振る舞い方などを学年にて指導を行った。</li> <li>・講演会の内容としては、相手に好印象を与える表情や言葉かけ、挨拶の仕方などを、職員とのロールプレイを交えて行っていただいた。</li> <li>・事後指導として、「おもてなし講座」を終えての感想を書いた。</li> </ul>
	 

**【② 第2学年対象「車椅子ソフトボール体験」の取組】**

- ・12月5日（木）に第2学年を対象に車椅子ソフトボール日本代表選手および北九州大学 山本准教授、大学生9名に來校していただき、「車椅子ソフトボール体験」の講演会を開催した。
- ・事前の学習として、道徳の授業を利用して身体障がい者への理解を深め、お互いに尊重し共生していく必要性について学習を行った。
- ・事後指導として、講演会を振り返っての感想文を書いた。



**【③ 全校生徒対象「ラグビー ウェールズ代表おもてなし」の取組】**

- ・事前の取組として、学校全体でウェールズ代表選手をお迎えするために、讃美歌を歌う練習時間を設け、給食時間などでは音楽を流しながら歌詞を覚える練習を行った。
- ・9月15日（日）の体育大会ではウェールズ代表の方達と第3学年の綱引き生徒とのプレマッチを行い、ウェールズの国旗を掲げながら讃美歌の合唱を保護者とともに行った。



- ・事後指導として、体育大会を振り返って感想を書いた。

6 主な成果

**【① 第3学年対象「おもてなし講座】**

- ・おもてなしとは、奉仕を行うことではなく、相手の気持ちになって対応に当たることであり、相手国の文化を理解していく必要性を感じさせることができた。
  - ・相手に好印象を持たれるために、TPO に合わせた5つのポイント（表情、態度、身だしなみ、言葉遣い、あいさつ）について意識させることができた。
- 〈生徒による振り返り〉
- 人のイメージが、見た目や言葉遣いでほんの数秒で決まってしまうと聞いて、日頃からもっと気をつけていきたいと思う。声のトーンや顔を上げて相手の目を見て話すだけで、印象が明るくなるのがよく分かった。
  - おもてなしとは型にとらわれたものではなく、相手を思う気持ちなのだと思えることができた。また、敬語も目上の人に「了解しました」は間違った使い方だと初めて知ることができた。
  - 「おもてなし」という言葉ができた背景を聞いて、たくさんの思いやりの心と相手を気遣う気持ちを知った。いろいろな場面での外国の方などに対する日本人の対応は、相手を気遣う気持ちから生まれたと知った。

**【② 第2学年対象「車椅子ソフトボール体験】**

- ・パラリンピックの歴史や車椅子ソフトボールの世界での普及の様子などを聞き、東京2020への興味・関心を高めることができた。

	<p>・障がい者と健常者が同じルールで行う競技であることを知り、障がいを 持った方達も同じ社会の中で生き生きと生活していることに気づくととも に、障がい者の方とも積極的に関わろうとする意識を育むことができた。 〈生徒による振り返り〉 ○車椅子での競技が上半身しか使えず難しいなと感じた。実際に取り組ん でみて、興味が出て楽しかった。今後は、来年のパラリンピックの観戦を したいなと思うし、車椅子の人を見つけたら手助けしたいと思う。 ○普段やっている野球とは違う体の動かし方でとても楽しかった。今まで 障がい者スポーツなどは興味がなかったが、将来は色々な人と一緒にでき るので、車椅子ソフトボールをしてみたいと思う。</p> <p><b>【③ 全校生徒対象「ラグビー ウェールズ代表おもてなし」の取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・讃美歌の練習をする中で、国の文化や国民性を学習し、ウェールズとい う国を深く知ることができた。</li> <li>・代表の方達との交流を通してスポーツに関心を持ち、ワールドカップや その先のTOKYO 2020への興味・関心を高めることができた。</li> </ul> <p>〈生徒による振り返り〉 ○綱引きをウェールズ代表選手の人達として、一方的に引きずられた時は すごくビックリした。負けたけど、代表選手と何かを一緒にするというの は今後できない経験なので、すごく楽しかった。 ○ウェールズ代表選手が足立中学校に来てくれた。最初は体が大きくて怖 いなと思ったけど、優しい方々だったし、綱引きも一緒にできてとてもい い経験ができた。</p>
<p>7実践において 工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各取組を単発で終わらせることがないように、事前・事後の学習や各通 信を通して保護者への周知、校内掲示を行った。</li> <li>・北九州市立障がい者スポーツセンターと連携し、競技用車椅子を12台 借用し、学年全生徒に体験活動をさせることができた。</li> <li>・北九州市立大学とも連携し、大学生にも来校してもらい、準備や片付け、 体験活動のサポートをしていただいた。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師を招聘する際のアスリートなどへの連絡手段や窓口など。</li> <li>・パラリンピック競技の道具の準備。</li> <li>・必要な物品などが、どのような施設・学校に保管されているか、また 各校で行った取組などノウハウや情報の共有化。</li> </ul>
<p>9来年度以降の 実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもてなし講座や車椅子ソフトボール体験などは来年度も引き続き実施 していきたいと考えており、現在日程を調整中である。</li> <li>・来年度はTOKYO 2020実施の年であるため、実際の競技を全校生徒 で応援するパブリックビューイングを計画中。</li> <li>・道徳や総合などを活用して、学習の中に2020年以降も取組を継続し ていけるように計画していく。</li> </ul>